

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホーム らい鳥		
所在地	北海道旭川市末広4条7丁目5番5号 (電話) 0166-57-0882		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(平成20年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年9月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 10.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,800~20,800 円
敷金	有(30,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(1月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 86.6 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人フクダ・加我歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に密着した活動が永い母体医療法人を中核とした、総合福祉施設の中のグループホームです。毎月広報誌「笑顔の花」を発刊し、利用者の日常の暮らしぶりや健康状態、行事参加の様子など写真を掲載して家族等に分かりやすく伝え認知症に対する広報や啓発に取り組んでいると共に共用空間では、利用者と職員が和やかに談笑しながら季節毎の桜や木々の貼り絵をリビングの壁に展示したり、手作りのたこ焼き等のおやつを食べながら一人ひとりのペースや思いを大切にケア理念の実践に取り組まれています。職員の内部研修も充実し、同一法人内の他施設との事例研究や感染症予防などの医療面での研修も充実させ職員のスキルアップに取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、口腔ケアの実践について改善点が見出されていましたが、手洗い・うがいの励行や口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じて口腔ケアが支援され改善されています。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解して具体的な改善に取り組まれています。自己評価は、全ての職員が参加して行なわれ改善の機会として捉えられケアサービスの質の向上に利用されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在1回実施されています。主な主題については運営推進会議について(地域密着型サービスについて) グループホームの役割について(地域からの要望) 認知症について 次回開催の運営推進会議の要望や取組みについて 運営推進会議の開催が、今後定期的に開催されることが期待されます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) グループホームらい鳥だより「笑顔の花」を毎月発行して、利用者の日常の暮らしぶりや誕生会、ひな祭り、花見等のホーム行事参加の様子、新規採用職員の紹介など写真を掲載して分かりやすく家族に伝えて意見や要望などが言いやすい環境づくりをしています。また、苦情等の受付窓口を明確にして職員間で共有して改善に活かされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会への加入までには至っていないが、近隣への散歩やスーパーでの買い物、演芸などのボランティアの受け入れ、グループホームらい鳥だより「笑顔の花」を毎月発行するなど日常生活を通じて地域の人達との交流が行なわれています。また、地域の役員が参加する運営推進会議を定期的に開催するなど地域との連携がますます期待されます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の運営理念、ケア理念をつくりあげ職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、月一度開催されるミーティングやモニタリングを通じて理念について話し合い、その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入までには至っていないが、近隣への散歩やスーパーでの買い物、演芸などのボランティアの受け入れ、グループホームらい鳥だより「笑顔の花」を毎月発行するなど日常生活を通じて地域の人達との交流が行なわれています。		地域の役員が参加する運営推進会議を定期的開催するなど地域との連携がますます期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解して具体的な改善に取り組まれています。自己評価は、全ての職員が参加して行なわれ改善の機会として捉えられケアサービスの質の向上に利用されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については評価日現在1回開催されている。委員は、利用者、家族、町内会役員、知見を有する有識者、民生委員、法人役員及び管理者・職員で構成されている。		運営推進会議の開催が今後、定期的に回数の頻度を上げて開催されることが期待されます。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政や包括支援センターとの連携の重要性について充分認識して日々取り組んでいる。		今後は、ホーム機能を生かしながら行政や包括支援センターの支援を得て、地域の人達が参加する講習会や研修会、消防訓練などを開催していくことが検討されている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームらい鳥だより「笑顔の花」を毎月発行して、利用者の日常の暮らしぶりや誕生会、ひな祭り、花見等のホーム行事参加の様子、新規採用職員の紹介など写真を掲載して分かりやすく家族に伝えて意見や要望などが言いやすい環境づくりをしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりに取り組んだり、苦情等の受付窓口を明確にして職員間で共有して改善に活かされています。また、状態変化については都度電話連絡などで詳細に報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームらい鳥だより「笑顔の花」での職員の紹介や共用空間で全スタッフの紹介を掲示するなど家族に情報提供をしている。また、管理者は職員の離職・異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内部研修も充実し、同一法人内の他施設との事例研究や感染症予防などの医療面での研修も充実させ職員のスキルアップに取り組んでいます。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・研究会での他施設との交流が行なわれていたり、同一法人の他施設との連携した研修会が開催されケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後は、同業者との相互訪問や研修会の開催など検討されています。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に根ざした母体医療法人の中のグループホームであり、利用者及び家族の信頼は厚い。また、本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と一緒に季節毎の貼り絵などの作品を製作したり、センター方式を利用して利用者の過去の大事な出来事や生活歴を把握して油絵や習字、俳句、刺し子など趣味への支援など支えあう関係を築いている。		職員手作りのたこ焼きなどのおやつを楽しく談笑しながら家庭的雰囲気を保ち、支えあう関係が築かれています。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式で一人ひとりの思いや意向を把握して、散歩や買い物、花見や紅葉狩りへのドライブ、寿司などの外食等外出の機会を多く作ったり、刺し子や絵画などの趣味への支援や食の嗜好の把握など本人を尊重した取り組みがされている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画はセンター方式を元に作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的なものとなっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、3ヶ月に一度モニタリングを実施して計画的に見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況に応じて、散歩や買い物、看護師・医師の往診など柔軟に支援を行っている。また、パワーリハビリテーションへの参加や歩行訓練など時々々の要望にも対応されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体医療法人の医師・看護師との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても往診など適切な医療が受けられるよう支援されて家族の信頼も厚い。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から母体医療法人と連携して利用者・家族とも段階的に繰り返し相談し合いながら慎重に検討対応するよう職員間で共有される取り組みがされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した声かけや対応が支援されている。また、個人情報の扱いについては配慮された取り組みが行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式の「24時間アセスメントシート」で個々の利用者の思いが把握され職員間で共有されている。また、散歩やスーパーでの買い物、ぬり絵や刺し子など趣味への支援など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が本人の希望や力量に応じて、一緒になって楽しんで調理や食事の準備をしている。食事中は、談笑するなど和やかな雰囲気を出している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、週2日を目安に利用者の希望に応じて対応している。また、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式で一人ひとりの過去の大事な出来事や生活歴が把握され、雑巾や布巾縫い、おしぼりたたみ、茶碗拭き、調理など一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、スーパーでの買い物、花見や白鳥見物、公園までのドライブ、寿司などの外食など気分転換ができるように日常的な外出が支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が配置され、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように利用者と共に実技を伴う火災避難訓練が年2回実施されています。また、消火設備についても点検が実施され対策されています。</p>		<p>今後は、日頃より協力が得られる地元消防署や近隣の住民も参加した火災避難訓練を実施する働きかけが検討されています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>具体的な食事摂取量・水分摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについても把握され、母体法人の栄養士の指導・アドバイスも受けて支援されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には、椅子やテーブルが配置され一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保され、広い窓からは周辺の景色や新緑が眺められる工夫がされている。また、利用者にとって不快な音や光の強さ、臭いは感じられない。職員の休憩する場所の工夫もされているが、更衣室等の確保についてもさらに工夫されることが望まれる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、仏壇や使い慣れた家具、誕生会のプレゼントや写真が飾られ安心して過ごせる場となっている。また、布巾縫いなど趣味を生かせる場となっていて一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。